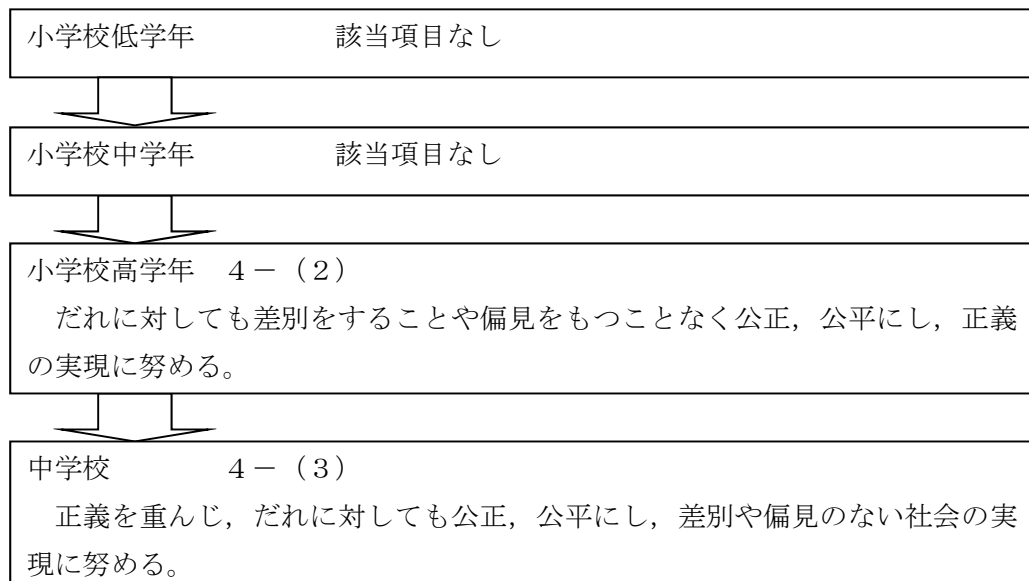


## 道徳学習指導案

- 1 日 時 2016年（平成28年）1月15日（金）5校時
- 2 学年・学級 1年1組（男子15名 女子19名 合計34名）
- 3 主題名 いじめを許さぬ強さ 【内容項目 4－（3）】
- 4 ねらい おもわず殴った私の心情を考えることを通して、正義を重んじ、誰に対しても公正・公平に接し、いじめや不正を断固として許さぬ心を行動で示そうとする道徳的実践意欲を養う。

5 小中一貫教育の視点



- 6 教材名 「私もいじめた一人なのに…」  
出典：「中学生の道徳1 自分を見つめる」（廣済堂あかつき株式会社）

7 主題設定の理由

（1）主題観

本主題は、内容項目の4「主として集団や社会とのかかわりに関すること」の（3）「正義を重んじ、だれに対しても公正、公平にし、差別や偏見のない社会の実現に努める。」にあたる。すべての人間は生まれながら公正、公平な存在であり、だれ一人と

してその尊厳を軽んじられることがあってはならない。しかし、悲しむべきことに世界中の至るところで、いまだに差別が存在し、身近な社会においても悪質ないじめが後を絶たない。このような卑劣な行為は決して許されず、また見逃されてはならないものである。よりよい社会の実現のためには正義を愛する心が不可欠であり、自他の不正や不公平を許さない断固とした姿勢と力を合わせて積極的に差別や偏見をなくす努力が必要である。

## (2) 生徒観

中学生の時期になると、ほとんどの生徒が善悪を正しく判断することができ、「いじめはよくない」ということを頭では理解している。また、社会の在り方についても目を向けはじめ、現実の社会がもつ矛盾や課題に気付き、理想を求める気持ちや正義感も強くなっていく。その反面、周囲の目を意識し、多くの意見や考えに左右されたり、自己中心的な考え方や行動をとったりしがちである。そのため、不正な行動やいじめをはじめ差別的言動が目の前で起こった場合、内心ではいけないと思っても見て見ぬふりをし、かかわり合いを避けようとするなど、勇気を出して止めるといった正義の実現に努めることに消極的になってしまうことも多い。

本学級の生徒は、互いの個性を受け入れようとする生徒が多く見られる。また、クラスの中に困っている生徒がいれば協力して解決しようとするなど、互いに支え合おうとする姿もよく見られる。本学級の生徒に実施したアンケートでは、「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」について、97%の生徒が「そう思う」・「どちらかといえばそう思う」と肯定的な回答をした。また、「間違っていることは、間違っているというべきだ」についても94%の生徒が肯定的な回答をしている。このように、正義感が強い生徒が多く、いけないことはしてはいけないと理解している生徒が多く見られる。

その一方で、「間違っていることがあれば、どんなときでも間違っているということができる」の肯定的な回答は67%、「仲の良い友達が悪いことをしていたら、やめさせることができる」の肯定的な回答は73%となった。「いじめは許されない」といった不正を許さない心は育ってきているが、それをいつも行動に移せているとはいえない生徒もおり、実際の行動にどう結び付けるかが課題である。

## (3) 指導観

本資料は、自分が標的になることを恐れ、いじめに同調してしまう弱さを持つ一方で、いじめを憎む正義感と勇気を持ち合わせた筆者の心の動きや行動の変化を捉えることのできる資料である。また、本資料で描かれる筆者は、いじめ構造の中で最も多くを占める第三者の典型であり、生徒が共感的に受け止めやすい資料である。

指導にあたっては、自らの弱さと闘い、その正義感と勇気を奮い立たせた筆者の心

の動きを考えることを通して、いじめの卑劣さを再度捉えさせるとともに、具体的な行動に結び付く強い正義感を養い、いじめのない集団を作ろうとする強い思いを培いたい。その際、どんな状況であっても暴力にうったえてはいけないことを踏まえて、筆者の思いを考えさせたい。また、生徒一人一人の意見を大切に、互いに共感的な受け止めをしていくなど、だれもが認められる雰囲気大切にしたい。

## 8 準備物

副読本，ワークシート，掲示用資料

## 9 学習の展開

	学習活動	生徒の反応	授業者の動き		指導上の留意点 ☆評価の観点
			T 1	T 2	
導入 3分	学年のいじめに関するアンケート結果を知る。	○アンケート結果から、いじめについての課題意識を持つ。 ・なぜいじめを止められないのか ・どうしていったらいいのか	発問	板書	・事前のアンケートとも絡め、身近な問題として意識させる。
展開 32分	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料を読む</li> <li>内容の確認</li> </ul> [発問1]	○私が小学生中学年（3～4年生）の時の話であること ○女の子のこと （アレルギー性のアトピーを持っていた、勉強はあまり得意ではなかった、誰よりもおとなしい子、無遅刻無欠席で朝一番にやってくる…など）	生徒観察  内容の確認	範読  板書	・教師が範読する。  ・あまり時間をかけないようにする。
	[発問2(中心発問)]	<ul style="list-style-type: none"> <li>もしかばったら、自分もいじめられるかもしれない。</li> <li>いじめをしている人の目が気になった。</li> <li>怖い</li> <li>勇気がなかった。</li> </ul>	発問	板書	・わかっているけども行動できない思い（傍観者の思い）を捉えさせる。

私は菌まわしがあったとき、「かわいそうだな。…」と思っていたにもかかわらず、「やめよう」と言えなかったのはどうしてだろう。

今まで、やめようと言えなかった「私」が、「おもわずその男子の頬を殴った」のは、どんな思いからだろう。

個人での思考(4分)  
↓  
班での交流(4分)  
↓  
全体での交流(10分)

**①男の子のこと**

・女の子が育てた花を汚いという男の子が許せない。

・女の子のことを一つも考えていない男の子に腹が立つ。

**②女の子のこと**

・女の子が初めて泣いたのを見た。

・女の子は嫌な思いをしているのに、強い気持ちでふるまっている。

・女の子は嫌な思いをしているのに、誰にでも公平に接しようとしているのに…。

・人に見えないところでもみんなのことを考えているのに…。

・嫌な思いをしても、みんなのために行動している女の子を悪く言ってほしくない。

**③自分(主人公)のこと**

・ただ女の子の思いを知ってほしかっただけなのに、自分が余計なことをしてしまった。

・嫌な思いを女の子にさせてしまった自分が許せない。

**④いじめの卑劣さ**

・いじめをして、何の罪もない女の子が苦しんでいること。

・いじめで人を傷つけていること。

・今しているいじめが卑怯なことであること。

**⑤いじめをする側の行動の変化**

・女の子が周りの子に認められて欲しい。

・女の子の本当の姿を知って、みんな

発問

机間指導

机間指導

板書

・どんな状況であっても殴ったりしてはいけないことを押さえ、それでも「おもわず」殴った思いを考えさせる。

・行動に移すこととなった背後にある、いじめを許さない心を捉えさせる。

※「許せない」「腹が立つ」という意見に対し、「何が許せないのか」「なぜ許せないのか」と問うことで、いじめを許さない心をより深く捉えさせる。

※「私がみんなの花を見に行こうと提案したのは、みんなにどんなことに気づいてほしかったのか」と問い、主人公の行動に結びついた心情をより深く捉えさせ

		なに変わってもらいたい。			る。  ・意見を受容的に受け入れる姿勢をもたせる。
終末 15分	[発問3]  「私」と同じ立場になったら（周りにいじめられている子がいたら…），どんなことができるだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人を傷つけるいじめは絶対に許されないことだと感じたので，だめなことはだめだと言いたい。</li> <li>・たった一人では解決することが難しいと思ったので，周りにいる人みんなまで止めたい。</li> <li>・いじめは，自分のことしか考えないからおこるのだと思うので，全ての人が少女のように，誰にでも公平に接することができれば，いじめがなくなると思う。</li> <li>・人の良いところを認めることが大切だと感じたので，見た目だけで人を判断しないようにしたい。</li> </ul>	発問 机間指導	机間指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業をふり返らせ，本時の学びを整理させるなかで，自分に何ができるかを考えさせる。</li> <li>・行動面だけに陥らないよう，「どうしてそう考えたのか」についても，しっかりと記述させる。</li> <li>・全体での交流の時間をしっかりととり，生徒自身の言葉でまとめをする。</li> <li>☆いじめや不正を断固として許さぬ心を行動で示そうとする意欲の高まりが見られるか。（ワークシート）</li> </ul>

